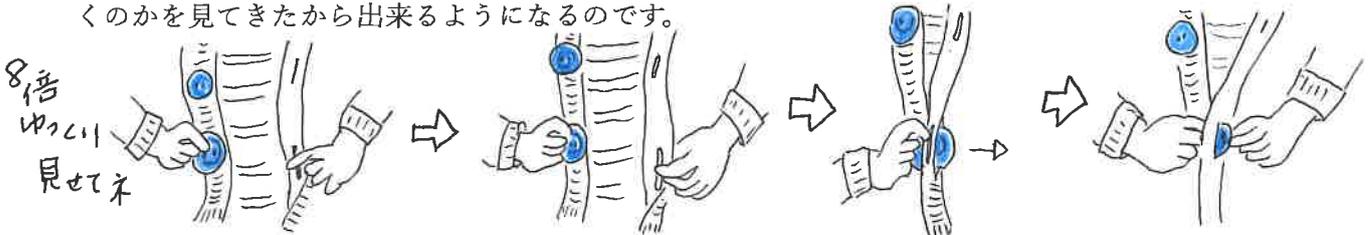


今回は「赤ちゃんの安心」についてのお話でした。聖心幼稚園は「子どもの自立を援助」することを大切にしています。「自立」とは、大げさと思われるかも知れませんが、自分の生き方を自分で決めることから始まります。人間には、たとえ赤ちゃんであっても自分で判断して選択する自由が与えられています。但し、そこに至るまでには大人の接し方、援助の仕方があってできていくことです。

ずいぶん前の事ですが、あるお母さんから「先生3歳になったら服が着られるようになりますか？」と聞かれたことがあります。3歳になったからできるのではなく、それまで何度も何度も大人に着せてもらいながら、毎日のように繰り返しボタンをはずす、ボタンをはめる行為によって手やボタンがどう動くのかを見てきたから出来るようになるのです。



赤ちゃんも幼児も何もできない存在ではありません。小さな時から、大人がチャッチャッとやってしまうのではなく、丁寧にを見せていくことで、子どもはどんどん環境を吸収して学んでいきます。



離乳食が始まり、もうお母さんのおっぱいでなくても生きていけるようになったら、赤ちゃんが少しずつ「自立」を意識できるように、抱っこではなく対面した場所に椅子を準備しましょう。

(前号の安心の場所：ここに来たら食事という場所で) それも、ひよいと坐らせてしまうのではなく赤ちゃん自身が「さアたべるぞ。」と意志が働き、よちよち歩きながら、椅子によじ登る事ができる環境を整えるのが大人の役割座らせてしまうのではなく椅子が倒れないよう支えるか、重い椅子を準備することが援助です。そして離乳食は、大人がどんどん口に運んでしまうのではなく、赤ちゃんが自ら口を開け、赤ちゃんの意思で食事をしようとした時に食べ物を口の中に入れてみましょう。でなければ鳥の餌付けになってしまいますよ。(代わってやるのではなく子どもの意思を援助する事です)

日常の小さな選択の積み重ねが、その子どもを育てていきます。(選ぶ or 選ばない責任)

「良く生きる」とは、生涯かけて自分は何者か？自分は何を選ぶかを問い続けていくことです。赤ちゃんの頃から自分で選んで生きる力をつける。その力をつけるのは大人が良い選択肢を準備することです。選択肢は、何でもいいというものではなく、子どもにとって益のある物であることはもちろん、選んだ責任は子ども自身がとれることが重要です。特別に大きなことではありません。例えば・・・

「AとBとどちらがいい？」しかし、選ばなかった方は手に入れることはできません。Aのうどんが食べたいといったけど、人が食べているBのオムライスがいいと主張した時は・・・「オムライスが良くなっちゃったのね、この次はオムライス作ってあげるね」とその日はうどんで終わらせることです。まして「どこの幼稚園がいい？」は、子どもには責任が取れません。それは大人が選択する事です。